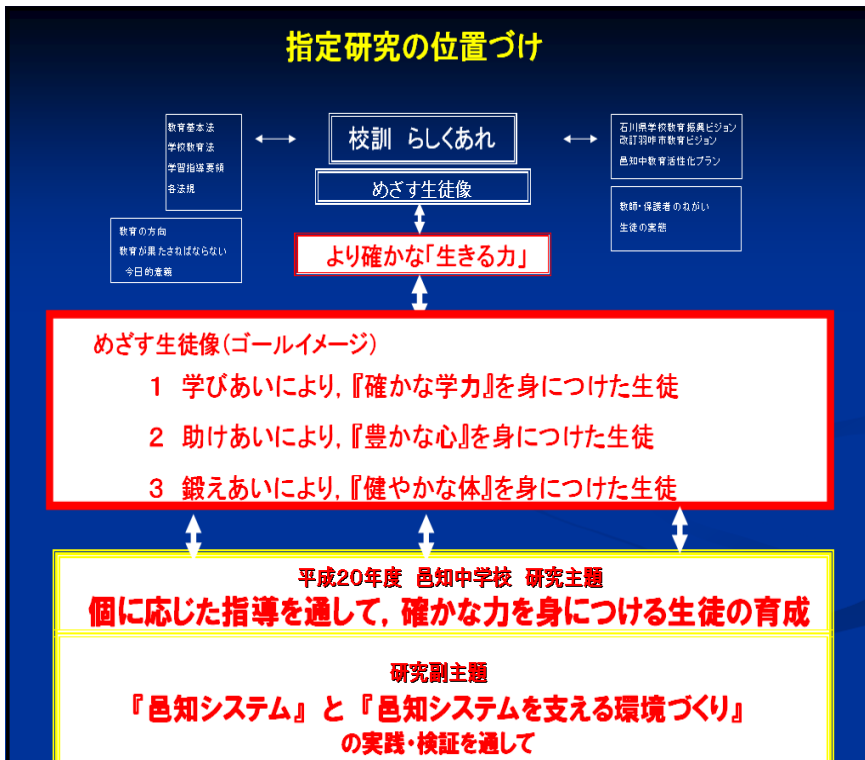
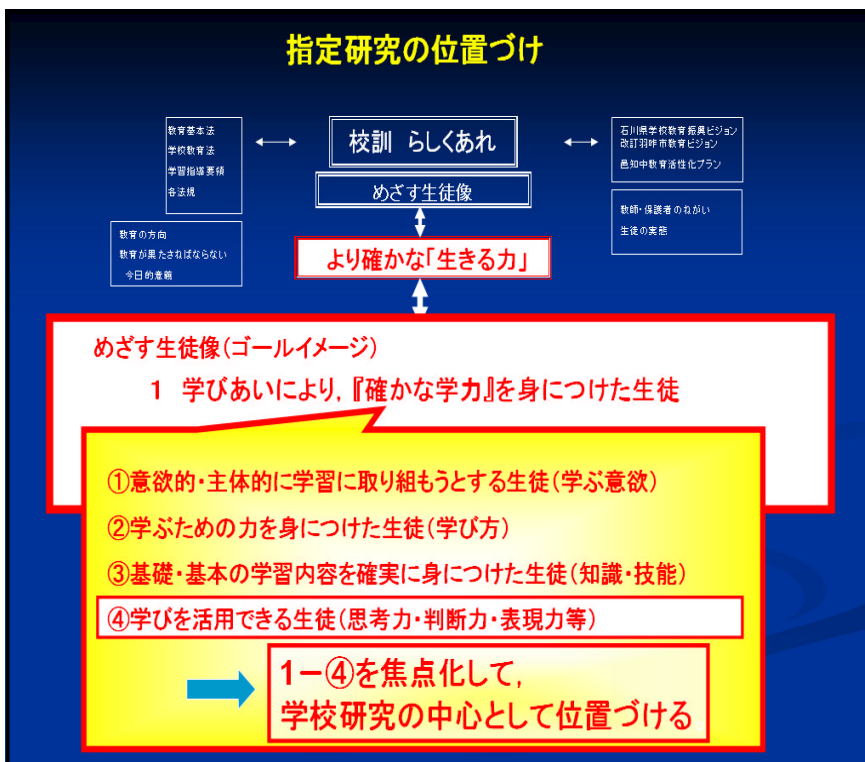


A-1 めざす生徒像と指定研究を通して育てたい生徒のゴールイメージ



新学習指導要領に引き継がれた「生きる力」の理念や、県および羽咋市の教育ビジョン等を受け、本校では「知・徳・体」の調和のとれた教育活動の推進を教育活動の根幹に据えることを再確認した。そこで「めざす生徒像」を14年ぶりに一新し、「めざす生徒像1～3」を教師—生徒—地域で共通理解をした。その実現のために掲げた研究主題が「個に応じた指導を通して、確かな力を身につける生徒の育成 ～『邑知システム』と『邑知システムを支える環境づくり』の実践・検証を通して～」である。

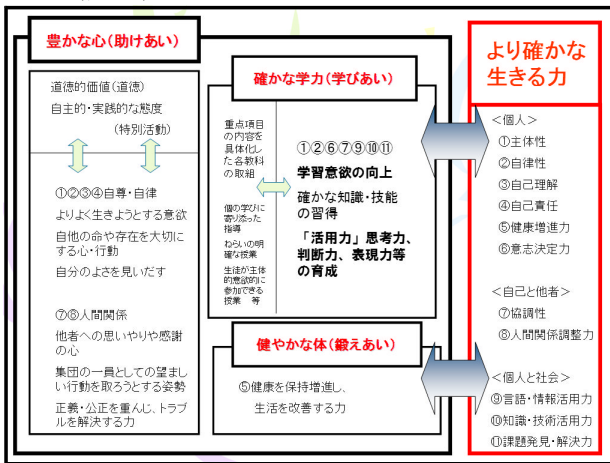


今年度指定を受けた「児童生徒の「活用力」向上モデル事業」を推進していくにあたり、「めざす生徒像1」の「学びあいにより『確かな学力』を身につけた生徒」の具体的な姿として描いた①～④の中から、④「学びを活用できる生徒（思考力・判断力・表現力等）」を、今年度の中心課題として設定した。この「ゴールイメージ1—④」は教師間はもちろん、教師—生徒間においても共通理解しており、本校の教育活動全体を通して、その実現に迫りたいと考えている。

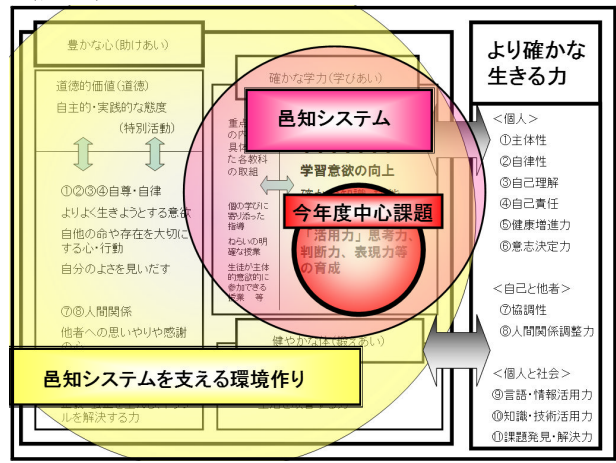
A-2 「生きる力」の自校化と『邑知システム』『邑知システムを支える環境づくり』の位置付け

変化の激しい社会において、「生きる力」の重要性や必要性は、以前にも増して高まっていくだろう。それを受け、本校では社会のいかなる変化にも柔軟に対応していくことのできる確かな「生きる力」を全ての生徒に身につけさせたいと考えた。そのためには「生きる力」の具体的なイメージを、全職員・全生徒が共通のものとして認識する必要があると考え、本校では、学校の実態を踏まえた上で「生きる力」の内容を具体化しながら焦点化し、自校化していくことを試みた。図1が「知・徳・体」の更なる調和をめざし設定した自校化された『より確かな生きる力』である。そして、「豊かな心」「健やかな体」の育成を『邑知システムを支える環境づくり』の取組が行い、「確かな学力」の育成を『邑知システム』の取組が中心となっていくよう、教育活動の中における学校研究の位置付けを明らかにした(図2)。

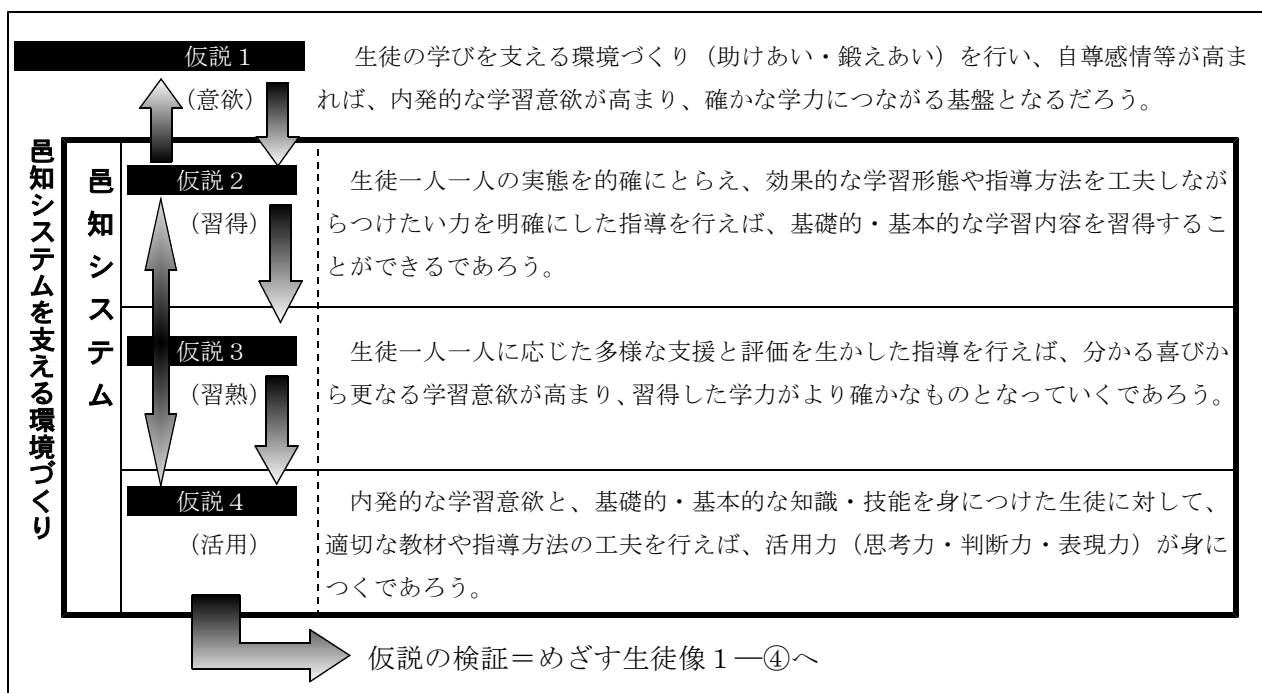
(図1)



(図2)



A-3 本研究の仮説 (めざす生徒像1—④ 活用力を身につけた生徒の実現に向けて)



A-4 『邑知システム』と『邑知システムを支える環境づくり』について

『邑知システム』とは、Research — Plan — Do — Check — Actin といったR—PDCAサイクルを繰り返しながら、学力の向上に迫っていく方法である。また『邑知システムを支える環境づくり』とは、『邑知システム』の効果を高めるために実践している学力を取り巻く環境の整備（ソフト面・ハード面）である。本校ではこの2つを、学力の向上の取組の軸として位置付け、実践に取り組んでいる。

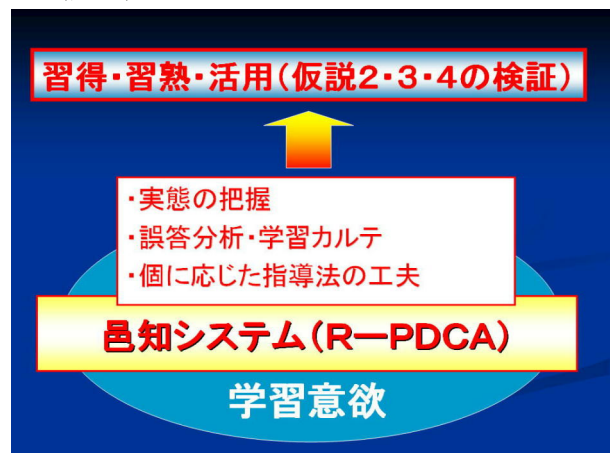
具体的には、『邑知システムを支える環境づくり』の取組を通して、向上心や自尊感情、自己肯定感、他者肯定感が高まっていくような取組を実践し、これらがいずれは「学習意欲の向上」につながっていくと仮定した（図3：本研究の仮説1）。そして、たくましい学習意欲のもとR—PDCAサイクルを用いた『邑知システム』の取組を通すことで、学習内容の習得・習熟が図られ、活用力につながっていくと考えた（図4：本研究の仮説2・3・4）。学校研究全体からみたR—PDCAサイクルの中に教科レベルでのR—PDCAがあり、それらが効果的に関連しあうことで、学力の向上をねらっている（図5）。

つまり、『邑知システムを支える環境づくり』で育まれた「学びを支えるたくましい学習意欲」のもと、『邑知システム』の手法を通すことで、指定研究を通じて育てたい生徒の姿（ゴールイメージ）に近づくと考えたのである（図6）。

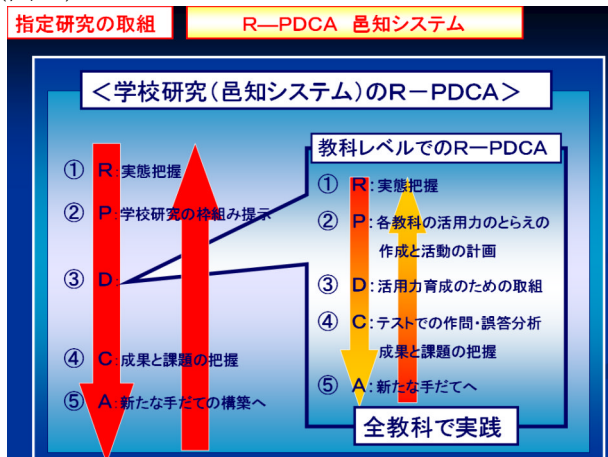
(図3)



(図4)



(図5)



(図6)

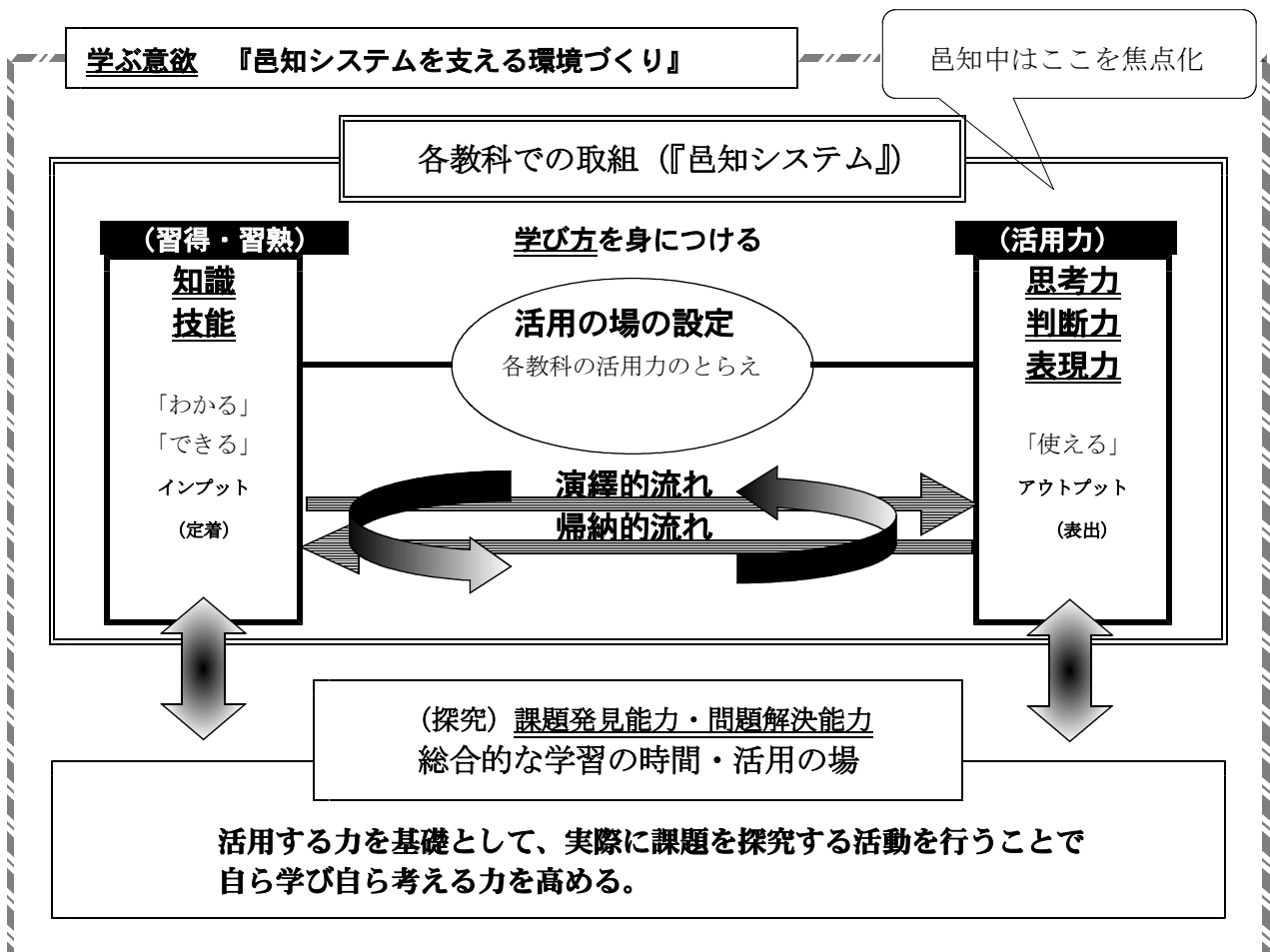


A-5 本校の活用力育成に向けたイメージ

「(前略) 各学校で子どもたちの思考力・判断力・表現力等を確実にほぐくむために、まず、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。各教科におけるこのような取組があつてこそ総合的な学習の時間における教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動も充実するし、各教科の知識・技能の確実な定着にも結び付く。このように、各教科での習得や活用と総合的な学習の時間を中心とした探究は、決して一つの方向で進むだけではなく、例えば、知識・技能の活用や探究がその習得を促進するなど、相互に関連し合つて力を伸ばしていくものである。」(「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(答申)中央教育審議会 平成20年1月17日 P24~25)


以上を受け、まず本校では「活用力」の下地となる「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」に力を入れていく。具体的には、基礎的・基本的な知識・技能を習得・習熟させていく過程を、『生徒にインプット一定着の場面』とし、『邑知システム』を中心とした取組の中で、生徒の実態を丁寧に把握しながら繰り返し取り組むことで、その確実な実現をめざしていく。また、生徒がそれらを活用していく場面を『生徒がアウトプット一表出する場面』としてとらえ、各教科で効果的な場面設定を工夫しながら、生徒にアウトプットを意識させた中で取り組んでいくこととする。

効果的な場面を設定し、『インプット一定着』と『アウトプット一表出』のサイクルを繰り返すことで、『思考力・判断力・表現力』が厚みを持ったかたちで育成されていくとし、またこのサイクルの充実が知識・技能の確実な定着にもつながるといった双方向の相互関連があることを基本の考えとする。



A-6 活用力の育成に向けた『邑知システム』の取組について


本校では、全教科において『邑知システム』を通しながら習得—習熟—活用のサイクルを意識した授業改善を図っている。(※は写真有)

R-PDCAサイクルを用いた『邑知システム』の実践	
Research	○ 個に対する丁寧な実態把握 (※学習カルテ・※教科相談・誤答分析・※各種アンケート等の分析)
Plan	○ 生徒の実態と「学校研究レベルでのPlan」を受けた各教科の計画作成 各教科における生徒のゴールイメージの明確化 ※全校生徒を対象にした学習オリエンテーションで共通理解
Do	○ 活用力の育成に向けた各教科の取組 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><インプット—定着の場面（習得・習熟）> 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をめざした各教科の取組 ・※各教科の基礎・基本の習得タイム ・※各教科における言語活動の充実 など</p> <p style="text-align: center;"></p> <p><アウトプット—表出の場面（活用）詳細はA-6> 活用力の育成を目指した各教科の取組 ・※各教科の活用力をはぐくむための場面設定の工夫 など</p> </div>
	○ 個に応じた指導法の研究 <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発 : つけたい力を明確にした教材開発 ・指導体制の工夫 : ※小中連携による学習規律の徹底 (学びの邑知スタイル) : 少人数授業における習熟度別学習の拡大 : 多様な学習形態の積極的導入 ・指導方法の充実 : つけたい力を生徒と共有した授業実践 : 選択教科の充実 (基礎・基本、基本+発展コース)
Check (Research)	○ 指導と評価の一体化による授業改善 <ul style="list-style-type: none"> : 活用力を見取る問題の作問・誤答分析 : 授業改善チェックリスト : 評価の工夫 : 指導案の工夫
	○ 校内研修会の充実 : 活用力の育成のための共通の視点 (指導の力点) を記した授業参観カード
	○ 学習サポート <ul style="list-style-type: none"> ・※教科相談 ・※邑知BASIC ・テスト前・長期休業中の学習指導 ・※テスト後のテストノートの実施
Action	○ 成果と課題を活かした新たな手だての構築へ

＜『邑知システム』の取組の様子の一例＞

指定研究の取組 邑知システム:Research・Check

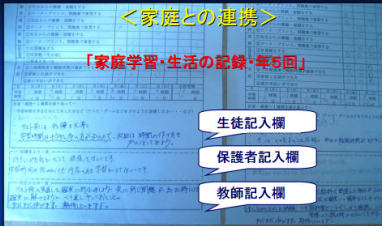
＜生徒の学びの把握＞
誤答分析と学習カルテ



全校生徒のカルテを収納
全員で一人ひとりの学びを共通理解していく。

指定研究の取組 邑知システム:Research

＜家庭との連携＞
「家庭学習・生活の記録・年5回」



生徒記入欄
保護者記入欄
教師記入欄

三者が共通理解しながら、見直し・改善に役立てる。

指定研究の取組 邑知システム:Research

＜教科相談＞
5教科担当との希望制面談(全生徒参加)



実態の把握、学びの深まり、課題の解決へ
全校生徒の9割が役に立っていると回答

指定研究の取組 邑知システム:授業での工夫

＜学びの邑知スタイル＞
小中連携した学習規律の徹底



学習規律10項目:いずれは生徒会主導に

指定研究の取組 邑知システム:指導体制の工夫(意識付け)

＜学習オリエンテーション1 6/5＞
生徒との共有化・意識付け



生きる力とは・・・、なぜ学ぶのか・・・

指定研究の取組 邑知システム:指導体制の工夫(意識付け)

＜学習オリエンテーション2 9/18＞
＜学習オリエンテーション3 10/29＞




活用力とは・・・、ゴールイメージの共有化

指定研究の取組 邑知システム:『インプット—定着』の場面

＜各教科＞基礎・基本の習得タイム

＜英語科＞
授業の開始時に、スタイルを変えて毎時間行う




教えあい 声を出しての確認

指定研究の取組 邑知システム:『インプット—定着』の場面

＜国語科＞
活用力の基礎となる言語活動の充実

「1年 言語技術の習得」



みた情景を言葉で表現(描写)していく。
毎時の始めに実施

指定研究の取組 邑知システム:『インプット—定着』の場面

＜邑知BASIC＞
基礎・基本の習得・習熟



学年職員が複数で指導にあたる。

指定研究の取組 邑知システム:『インプット—定着』の場面


＜邑知BASIC＞
言語技術の習得



聞きとる。要旨をまとめる。描写する。
説明する。分析した内容をことばで表現する。
などを、学年職員が中心となり指導する。

指定研究の取組 邑知システム:『インプット—定着』の場面


＜テストノート＞
各教科ごとにファイルを作成



プリントや、テストでの誤答問題をファイルし、
復習などに役立てる。

指定研究の取組 邑知システム:『インプット—定着』の場面

＜生徒会主催 チャレンジスタディ＞
基礎・基本の習得・習熟



生徒会役員が出題し、
学級単位で基礎基本の習得にチャレンジする。

A-7 活用力の育成に向けた「アウトプット—表出の場面」の取組について

平成20年1月17日に示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）中央教育審議会」P25の①～⑥の活動例を基本とし、各教科の年間指導計画の中の実際の具体的な活動内容や場面と照らし合わせながら実施している。その際、邑知中学校として以下のA～Cの要素を教科の特性に応じて柔軟に加味していくことで、活動の深まりを期待した。なおA～Cの枠組みは、今後更新される可能性がある。

中教審①～⑥（本校では 1 ～ 6 と置き換えた）

+

- A 実感をともなって、理由や意味について納得する学習
- B 自分の考えを自分の言葉で表現する学習
- C 学習内容を活用する学習

＜『邑知システム』を利用した「活用力」をはぐくむ授業の様子の一例＞

指定研究の取組 邑知システム:『アウトプット—表出』の場面


＜国語科＞
活用力の基礎となる言語活動の充実
「3年 高瀬舟 ディベート B—6」



自分の思いを自分のことばで、筋道を立てて

指定研究の取組 邑知システム:『アウトプット—表出』の場面


＜数学科＞
「1年 方程式 B—6」



自らが作問した問題を紹介し合い
自分の考えを伝え合う。

指定研究の取組 邑知システム:『アウトプット—表出』の場面


＜美術科＞
自分の思いを言語として表出していく
「どこでもミュージアム in 邑知中 Part I B—1」



本物との出会い 県立美術館学芸員とのT・T

指定研究の取組 邑知システム:『アウトプット—表出』の場面

＜2年選択技術科＞
既習事項を生かして構想を練る。
「ロボット製作 A—5」



七尾東雲高等学校の先生を迎えて、
見て、触って、納得のいく学習

A-8 『邑知システムを支える環境づくり』の取組について

以下の取組等を行うことを通して、自尊感情や自己肯定感、他者肯定感をはぐくみ、自分の人生を前向きにとらえることができるような姿勢の育成をねらった。この意識の高まりが、学習意欲につながっていくと考えている（本研究仮説1）。

- (1) 心に響く体験活動や道徳教育の充実
 - ・向上心や自己肯定感、自尊感情、他者肯定感の高まりを狙う
- (2) 自主性を重んじた生徒会活動の充実
 - ・達成感を味わう生徒会行事（心に響く体験活動）
 - ・一人年5回以上のボランティア活動
 - ・エコ・スクールの取組の充実（学校版環境ISO取得）
- (3) 自らの将来を肯定的にとらえるキャリア教育の充実
 - ・3年間の系統性を持たせた取組
- (4) 自らの心身の健康を保持・増進させようとする活動の充実
 - ・全員部活動体制・体力アップをめざした取組
 - ・食育の充実・給食残量「0」運動など
 - ・生徒会による啓発活動
 - ・外部講師を招いた講話
- (5) 学びの環境整備づくり
 - ・安全と安心の保障
 - ・教科教室の整備
 - ・うるおいのある花壇づくり
- (6) 開かれた学校づくり
 - ・オープンスクール（学校公開）
 - ・HPの更新
- (7) 学校・家庭・地域との協働
 - ・小・中交流教育事業の実施（育てたい児童・生徒像の共有化など）
 - ・地域・家庭と連携した行事
 - ・上越教育大学研究プロジェクトとの連携
 - ・外部評価の充実
 - ・家庭と連携した「家庭学習・生活の記録」の実施

< 『邑知システムを支える環境づくり』の取組の様子の一例 >

指定研究の取組 邑知システムを支える環境づくり

<道徳の充実>
前向きに生きようとする心情を養う



命をテーマにした道徳授業の様子
命を大切に一命を輝かせて生きる

自己肯定感の育成

指定研究の取組 邑知システムを支える環境づくり

<生徒会活動の充実:体育祭・邑中祭>
集団の中での所属感の高まりをめざす。



両行事ともに
生徒の成就感・充実感100%達成！！

心に響く体験活動

指定研究の取組 邑知システムを支える環境づくり

<生徒会活動の充実:ボランティア>
一人年5回以上の参加をめざす。



千里浜なぎさクリーン運動
全校生徒1/3の参加

親子奉仕活動
全校生徒90%の参加

自己有用感・他者肯定感の高まり

